

聖火がつなぐ思い

一筆 静岡の今

117

日本中が、東京五輪・パラリンピックに向けて走り出した。3月25日、福島県からスタートした聖火リレーは約1万人の走者が121日間で全国859区市町村をめぐり、7月23日に開

会式がある東京・国立競技場をめざす。

静岡県内では聖火リレーに先駆けて、トーチだけの巡回が行われていた。2月1日に湖西市で展示されたトーチは県内各市町で1日ずつ展示され、聖火リレーが福島県をスタートする前日の3月24日、県庁に戻ってきた。

県内の本番の聖火リレーは6月23～25日の3日間行われる。コースは次の通りだ。

1日目(6月23日) 湖西市、浜松市北区、同市中区、磐田市、袋井市、掛川市、島田市、静岡市葵区▽2日目(同24日) 牧之原市、藤枝市、静岡市清水区、焼津市、長泉町、富士市、三島市、沼津市▽3日目(同25日) 伊東市、下田市、伊豆の国市、伊豆市、裾野市、御殿場市、小山町、富士宮市。

東京五輪・パラリンピックの開催はコロナ禍で1年延期されたが、今も様々な議論がある。走り始めた聖火リレーについても辞退する走者があり、実行を疑問視する自治体もある。

聖火リレーが福島県からスタートしたのは、東京五輪の理念が「東日本大震災からの復興」だったからだ。新型コロナウイルスが世界に蔓延すると「人類がコロナに打ち勝った証し」ともされた。しかし、震災からの復興もコロナとの闘いもまだ終わっていない。重い使命を背負って、今日も日本のどこかで聖火リレーが走っている。赤々と燃える炎が、開催を願う人の思いをつないでいる。(前静岡県監査委員・富永久雄)

◆「一写一筆・静岡の今」は今回で終わります。

県庁に戻ってきた聖火トーチ
静岡市葵区、全日写連・中村明弘さん撮影

